



安藤 忠男
 (土壌肥科学・環境科学)

東広島市を代表する景観の一つである西条酒蔵通り。「酒蔵通りの魅力をパワーアップしてより多くの観光客に来てもらうにはどうしたら良いか？」と聞かれたら、あなたはどうか答えますか？

地域課題研究懸賞論文②

酒蔵観光振興、若者や市外の人の目不可欠

地域課題懸賞論文で優秀賞(賞金十万円)を得た広島大学大学院教育学研究科の倉本尚さんは次のような研究で答えを導き出した。



酒蔵の景観と高層マンション

まず各酒蔵を調査し、東広島市観光協会が行っているアンケート調査を分析して観光客、観光情報、観光資源の実態を明らかにした。その上で酒蔵観光を終えた人たちと面談して観光について聞き、観光前の期待度と観光後の満足度の変化を分析して、酒蔵観光の課題を明らかにしたのだ。

観光客との面談調査の結果、観光課題が明らかになってきた。具体的には、酒蔵通りの景観は多くの人に高く評価されているにもかかわらず

まず景観を維持するに十分な体制がとられていない、学習観光として魅力が少ないために西条の日本酒造りの特色が十分に伝わっていない、日本酒と食を組み合わせた観光が十分に機能していないことなどだ。西条酒蔵通りの恵まれた観光資源を生かしていないとの見立てだ。

景観条例を制定できる景観行政団体にもなっていない東広島市、酒まじりの成功や日本の20世紀遺産20選に選ばれたことに満足してい

るかのように見える関係者。これでは酒蔵観光の振興は望めない。

まちづくりの成功には若者、よそ者の眼が不可欠だ。西条酒蔵観光や本市の酒造りそのものを発展させるために、新たな視点から西条の発展ビジョンを描き、その実現に若者やよそ者を含め衆知を集める時期にきているように思う。

広島大学マスターズは、広島大学を退職した教職員で組織しています。市民を対象にした講座も行っています。
【問い合わせ】
 kazuwp@hiroshima-u.ac.jp(渡部)



過去の記事